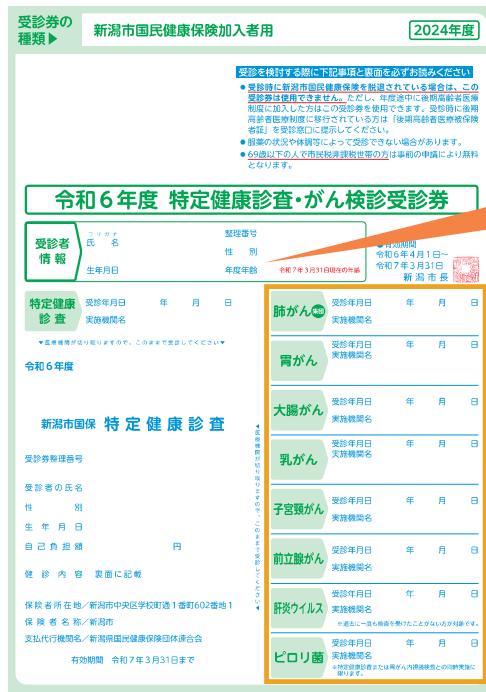


受診方法の確認

同封の受診券をご確認ください



受診券がないと新潟市の各種検診が受けられません。
すべての検診が終了するまで、紛失に注意しましょう。

受診券に記載されている年齢は令和7年3月31日現在の年齢です。

受診時に検診実施機関が受診日・実施機関名を記入します。

市国保…緑 後期高齢…ピンク
それ以外の保険…青

※保険証が変更となった場合は受診券も変更手続きが必要です。
ただし、市国保から後期高齢への変更はそのまま使用できます。

step

1

実施医療機関等に直接予約

集団検診 P7~12



予約は不要

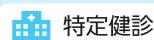
当日直接会場へ



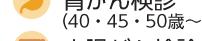
予約が必要

電話等で事前予約

施設検診 P14~20

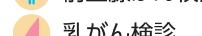


特定健診



胃がん検診

(40・45・50歳~)



大腸がん検診



前立腺がん検診



乳がん検診

予約が必要

医療機関に電話等で
事前予約

step

2

検診を受診

集団検診は検診会場、施設検診は予約した医療機関で受診

持ち物 受診券 健康保険証(健康保険証登録したマイナンバーカードも可)
自己負担金

集団 個人記録票(胃・肺がんの集団検診に必要)

施設 質問票(特定健診を受診する場合に必要)

step

3

結果を確認

集団 受診した区の区役所健康福祉課より結果通知を郵送
(胃がん・乳がん検診は1か月、肺がん検診は1か月半程度かかります)

施設 検診実施機関が結果をお知らせ

(令和7年3月31日現在の年齢です)

★の料金は、新潟市国民健康保険加入者は半額となります。

※70歳以上の車いす利用者等は、乳がん検診(施設)を受診できます。

新潟市の各種検診メニュー

検診名		対象年齢		40歳	41~59歳	60~69歳	70歳以上
特定健診	施設	40歳以上		500円	500円	無料	無料
肺がん(結核)検診	集団	40歳以上		無料	無料	無料	無料
胃がん検診	集団	バリウム	40歳以上	無料	1,000円★	1,000円★	無料
	施設	バリウム	40歳、45歳、50歳以上	無料	45歳、50歳以上 2,000円★	1,000円★	無料
		内視鏡	40歳、45歳、50歳以上の偶数年齢	無料	45歳、50歳以上の偶数年齢 2,000円★	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 無料
大腸がん検診	施設	40歳以上		無料	1,000円★	1,000円★	無料
乳がん検診	集団	40歳以上の偶数年齢の女性	<small>(奇数年齢でも合計5年以内に受けた場合は、再検査可)</small>	無料	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 無料
	施設	40~69歳の偶数年齢の女性		無料	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 1,000円★	※
子宮頸がん検診	施設	20歳以上の偶数年齢の女性 (20歳無料)		1,000円★	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 1,000円★	偶数年齢 無料
前立腺がん検診	施設	50歳以上 5歳間隔の男性			50・55歳 1,000円★	60・65歳 1,000円★	5歳間隔 無料
肝炎ウイルス検査	施設	1度も受けたことがない方		1度も受けたことがない方 無料			
ピロリ菌検査	施設	40歳		1,000円			

●健康保険証の種類確認について

新潟市の健(検)診は健康保険証の種類により自己負担額が異なります。受付の際、健康保険証の種類確認を行いますので皆様のご理解とご協力をお願いいたします。なお、受診後の返金はいたしかねます。

●無料券の交付について

市民税非課税世帯の方

当該年度(確定するまでの間は前年度)非課税世帯の方は、事前に申請書を提出いただくことで無料券を交付します。

受診の2週間前までにお住まいの区役所健康福祉課に申請書を直接または郵送で提出してください。

申請書は健康福祉課に設置しているほか、市のホームページ(「各種検診」ページ)でダウンロードできます。

申請には健康保険証(健康保険証登録したマイナンバーカードも可)が必要となります。

〈無料券申請の前に〉

- 市・県民税の申告をせず課税情報がない方が世帯内にいる場合、市民税非課税世帯と認定できません。
- 未申告の場合は税担当窓口で申告後、1か月程度間をあけてから無料券の交付を申請してください。
- 令和6年1月1日時点で新潟市に住民票がなかった方は、1月1日時点で住民票があった市町村の課税証明書を提出してください。

生活保護受給者、中国残留邦人の方

受診の際に受給証明書が必要です。各区健康福祉課または保護課で事前に証明書の交付を受けてください。(検診ごとに1枚ずつ必要です。)

 お口の
健康長寿健診

詳しくは
P21・22を
ご覧ください。

特定健診について

特定健診とはメタボリックシンドロームの予防・解消に重点をおいた健診です。

自覚症状はなくても「からだ」の状態を確認するよい機会となります。
年に一度の習慣として、ぜひ特定健診を受診し、健康管理に役立てましょう。

対象者 新潟市国民健康保険加入者、新潟県後期高齢者医療制度加入者、生活保護受給者等

※特定健診の受診方法は、新潟市国民健康保険加入者のほか、新潟県後期高齢者医療制度加入者、生活保護受給者等も同様です。

※社会保険加入者の特定健診は加入している保険者が実施します。健康保険証の発行元にお問い合わせください。
(加入手続き中の場合も加入先の保険証の発行元にお問い合わせください。)

※現在通院中の方も対象です。まずは主治医へご相談ください。

お問い合わせ先 新潟市保険年金課
健康支援推進室
☎ 025-226-1075
FAX 025-226-4008 (電話でのお問い合わせが困難な方専用)

特定健診の検査内容

《基本的な健診》

全員実施

- ・問診
- ・身体計測
身長、体重、BMI、腹囲(後期高齢者健康診査は腹囲測定なし)
- ・身体診察 ・血圧測定 ・尿検査(糖・蛋白・潜血*)
- ・血液検査

血糖検査 HbA1c、空腹時または隨時血糖

脂質検査 中性脂肪(空腹時または隨時中性脂肪)、HDLコレステロール、

LDLコレステロール(中性脂肪が400mg/dl以上または食後採血の場合はNon-HDLコレステロールの測定でも可)、総コレステロール*

腎機能検査 クレアチニン*、eGFR*

肝機能検査 AST、ALT、γ-GT

・血清尿酸* ・血清総蛋白*

※の検査は、国が定めた特定健診の基本的な健診以外の検査です。(新潟市国保の独自健診項目)

生活習慣病は気づかないうちに進行します。
生活習慣病を予防するため毎年健診を受けましょう!



《詳細な健診》

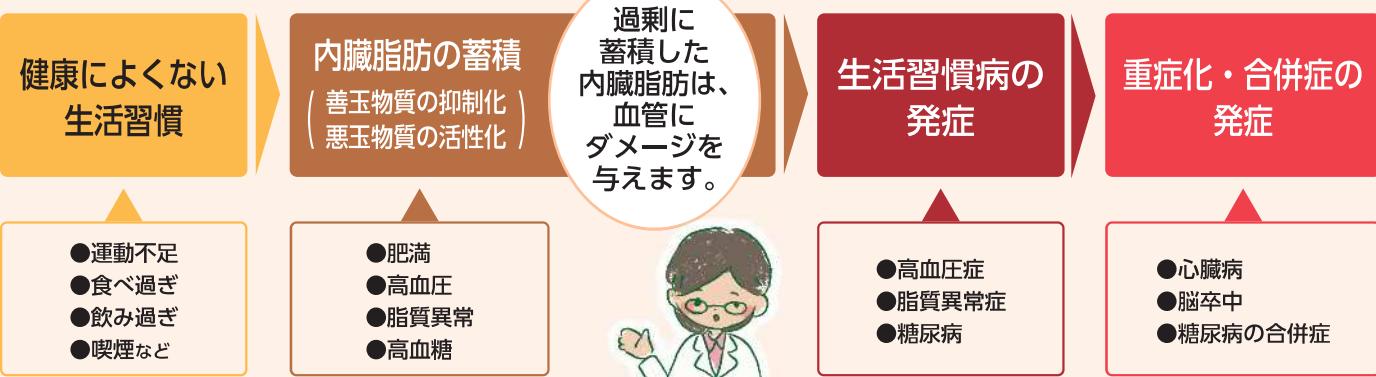
基準に該当し、医師が必要と認めた場合実施

- ・貧血検査・眼底検査・心電図検査(*)

※心電図検査は60歳以上で希望される方はお受けいただけます。

ただし、心疾患・高血圧等で治療中の方など医師から検査が必要ないと判断された方は除きます。

生活習慣病の進行



動脈硬化の進行

特定健診の受け方

1 受診機関を選ぶ

この冊子のP14～20の「新潟市特定健診・がん検診委託医療機関名簿【施設検診】」から、受診先を選びましょう。予約が必要な場合もありますので事前に受診先へ電話でお問い合わせください。

2 受診する

- 【持ち物】
- ①同封の受診券
 - ②健康保険証(健康保険証登録したマイナンバーカードも可)
(生活保護受給者の場合は、生活保護受給証明書)
 - ③同封の「質問票」
(特定健診用または後期高齢者健診用)(3枚複写)

質問票は
あらかじめ記載のうえ、
受診医療機関に提出してください。
後期高齢者医療制度に移行された
方は、質問票が変更になります。
健診を受ける医療機関より
お受け取りください。

↑
特定健診の検査項目以外を実施する場合は、別途料金がかかります。
詳しくは受診医療機関にご確認ください。

【自己負担額】

新潟市国民健康保険加入者	40～59歳 500円※
60歳以上	無料

新潟県後期高齢者 医療制度加入者	無料
生活保護受給者等	無料

※40～59歳の市民税非課税世帯の方は事前の申請により自己負担が無料となります。
詳しくはP2をご覧ください。

【受診前の注意】 空腹で採血することが望ましいです。予約の際、受診先にご確認ください。

3 結果説明を受ける

受診した医療機関等で健診の結果説明を受けます。

特定健診を受けていない方、健診結果から治療が必要な方で受診をされていない方へハガキやお電話、訪問等で、受診のご案内をさせていただことがあります。



特定保健指導が無料でご利用できます

新潟市国民健康保険加入者で、健診の結果、生活習慣病のリスクが高い場合は、健診を受けた医療機関もしくは区役所から特定保健指導をご案内します。保健師・管理栄養士などが健康づくりをサポートしますので、ぜひご利用ください。

(特定保健指導の対象とならなかった方で、保健師や栄養士などによる相談を希望される場合は、各区の健康相談をご利用いただけます。)

人間ドックを受診される方へ

受診券を利用し受診する場合

人間ドックの検査項目のうち「特定健診」と同一項目の検査について受診券が利用できる医療機関があります。利用可能な医療機関については新潟市ホームページに掲載しています。ホームページをご覧になれない方は、各区役所健康福祉課健康増進係(表紙参照)または保険年金課(P3参照)へお問い合わせください。

受診券が利用可能な
医療機関一覧



二次元コードからの
読み取りも可能です

予約時

医療機関へご予約の際に受診券が利用可能かご確認ください。人間ドックのコースによつては利用できない場合があります。

受診当日

「特定健診」の受診券を保険証と一緒に持ちください。料金は人間ドック費用から受診券利用分を引いた金額となります。

注意事項

「特定健診」の受診券を利用しての受診は年度内に1回のみです。
受診券を利用せず人間ドックを受診した場合、受診券利用分の払い戻しはできません。

受診券を利用せず受診する場合 ー新潟市国民健康保険加入者の方ー

「特定健診」の受診券を利用せず、人間ドックや職場健診を受診された場合は、健診結果(コピー)の提出にご協力ください。ご提出いただいた結果より、生活習慣病のリスクが高い場合には無料で特定保健指導をお受けいただけます。提出方法は、保険年金課(P3参照)へお問い合わせください。

※健診結果は、本人の健康管理を行うための保健指導や健診データの集約・分析以外の目的では使用しません。

がん検診について

受診日に必要な持ち物

- 令和6年度受診券
- 健康保険証(健康保険証登録したマイナンバーカードも可)
- 自己負担金(受診券に記載)
- 個人記録票(胃・肺がんの集団検診を受ける場合)

肺がん(結核)検診

1年に1回

集団検診	X線撮影 40歳以上
-------------	---------------

検診車で胸部をレントゲン撮影します。65歳以上の方は、結核検診を受けることが法律で定められています。

受診の前にお読みください

- 同封の「肺がん(結核)検診個人記録票」に必要事項を記入し、検診会場にお持ちください。
- 他区の会場でも受診可能です。詳しくはお問い合わせください。
- 個人的に医療機関等で受診する場合は有料となります。

次の方は受診できません

- 胸部の疾患で受療中の人や経過観察中の人は
- 6か月以内にたんに血が混じったことがある人(医療機関を受診することをおすすめします。)
- 現在妊娠中、または妊娠していると思われる人

80歳以上の方は、結核を発症する危険性がそのほかの年齢の方に比べて約5倍高くなります。

胃がん検診

検査方法は2種類。
どちらかを選択して受診。

次の方は胃がん検診を受診できません

[X線・内視鏡共通]

- 胃を全摘した方
- 妊娠中の方
- 胃がんで内視鏡切除(ESD)を受けた方(5年間検診の対象外)
- 胃がんや胃・十二指腸かいよう、ポリープ等で治療中の方

[X線のみ]

- ペースメーカーおよび植込み型除細動器を装着している方
- 検査当日を含め3日間(72時間)以上排便がない方(排便後に受診してください)
- 腸閉塞になったことがある方
- バリウムアレルギーの方
- 1年以内に消化管、循環器、呼吸器、頭部などの手術や寝台で回転する(体の向きを変える)のに影響がある整形外科系などの手術をした方

[内視鏡のみ]

- 抗血栓薬(ワーファリン等)服用中の方(少しの刺激でも粘膜から出血を起こす場合があり、止血に高度な技術が必要になるため)

※40歳、45歳、50歳以上の方は施設(医療機関)でも胃がん検診を受診できます。施設検診の利用もご検討をお願いします。

乳がん検診

女性限定 2年に1回

集団検診	40歳以上の偶数年齢
施設検診	40歳~69歳(70歳以上の車いす利用者等)の偶数年齢

40歳代は2方向、50歳以上は1方向のみ撮影します。
※70歳以上の方は集団検診での受診となります。

受診の前にお読みください

- 乳房を圧迫して撮影するため、多少の痛みを伴います。生理前は乳房が張ることがありますので、検診を避けることをおすすめします。
- 検査時に着るカーディガン、バスタオル等をお持ちください。
- 検診当日は、制汗剤やパウダーなどをつけてはいけません。パウダー等ががんのサインである石灰化に似て写ることがあります。

次の方は受診できません

- 豊胸手術(ヒアルロン酸注入含む)を受けた方、妊娠中、授乳中の方。卒乳後6か月経過していれば受診できます。
- ペースメーカー、VPシャント、皮下埋め込み型ポート、植込み型除細動器など医療機器が前胸部に入っている方
- 乳がんの手術後10年以内の方

X線撮影(バリウム)検査

集団検診	40歳以上
施設検診	40歳、45歳、50歳以上

バリウム(造影剤)と発泡剤を飲み胃を膨らませてX線撮影します。

受診の前にお読みください

- 集団検診を受診する際は、同封の「胃がん検診個人記録票」裏面の注意事項(食事・服薬等の制限事項)をお読みいただき、必要事項を記入して検診会場にお持ちください。
- 体重130kg以上の方は撮影装置の安全性の問題から検査できない場合があります。
- 高齢の方は、自覚症状がなくても誤嚥を起こすことがありますので、医療機関での検診をおすすめします。

胃内視鏡(胃カメラ)検査

施設検診	40歳、45歳、50歳以上の偶数年齢
-------------	--------------------

胃内視鏡(胃カメラ)を挿入して胃内部を観察します。

がん検診 当日の受診可否について

当日の問診の結果、体への影響を配慮し受診できない場合がありますのでご了承ください。

検診をする部位の疾患で治療中・経過観察中の方はその検診を受診できません。

また、自覚症状がある方は医療機関での診療を受けてください。(他の部位の検診は受診可)

●がん検診対象者●

40歳以上で、下記のいずれかに該当する方が対象です。

- 新潟市国民健康保険加入者
- 新潟県後期高齢者医療制度加入者
- 生活保護受給者等
- 職場や被扶養者向けのがん検診の機会がない方

- ・職場等で検診の機会がある方、または補助がある方は、新潟市がん検診は受診できません。検診や補助の有無については勤務先や健康保険証の発行元にお問い合わせください。
- ・検診する部位の疾患で治療中、経過観察中、または自覚症状がある場合は受診できません。

大腸がん検診

便潜血検査(2日法)

便に潜む血液の有無を調べる検査(検便)を行います。
食事制限はなく、便の採取は自宅で行うことができます。

1年に1回

施設検診 40歳以上

子宮頸がん検診

子宮頸部細胞診検査

子宮頸部の細胞を採取します。
次の方は受診できません
・子宮を全摘出した方

女性限定

2年に1回

施設検診 20歳以上の偶数年齢

奇数年齢でも前年度未受診であれば受診可能です。

前立腺がん検診

血液検査(PSA検査)

血液中のPSA(前立腺特異抗原)の濃度を測定します。

男性限定

5年に1回

施設検診

50歳以上の5歳間隔
(50歳・55歳・)
(60歳…)

がん検診のメリットとデメリット

がん検診を受診するメリットは、早期発見・早期治療につながり、がんで亡くなる可能性を減少させることです。

一方、がん検診にはデメリットがあり、がんでなくても「要精密検査」となることがあります。また、がんが一定の大きさになるまでは発見ができない場合や、検査では見つけにくいがんもあり、すべてのがんが検診で見つかるわけではありません。

しかし、国の指針で定められたがん検診で行われるすべての検査は、がんで亡くなることを防ぐメリットが、デメリットより大きいことが証明されています。早期発見のために、定期的に受診を続けることが最も大切です。

肝炎ウイルス検査

血液検査

(B型肝炎およびC型肝炎)

施設検診

1度も受けていない方

1度も受けたことがない方

血液中のウイルスの有無を検査します。

ピロリ菌検査

対象年齢で1回のみ

ピロリ菌は、胃に炎症を起こし、胃がん・胃かいよう等の危険因子になります。感染している方のうち胃がんになるのは1~2%です。

血液検査

(胃内視鏡検査または特定健診と同時実施)

施設検診 40歳

新潟市
国民健康保険加入者
生活保護受給者等社会保険
加入者次の方は対象外のため
受診できません特定健診と
あわせて実施新潟市がん検診
(胃内視鏡検査)と
同時実施

- ①胃の手術をした方
- ②ピロリ菌の除菌療法を受けた方
- ③抗血栓薬服用者は、検診として胃内視鏡検査は受けられません。
- 新潟市国保加入者は特定健診と一緒にお受けください。

検査結果が陽性だった場合は医療機関を受診し、除菌治療について相談してください。

除菌が成功しても定期的な胃がん検診は必要です。

がん検診で「要精密検査」となった場合の主な精密検査の方法

肺	胸部CT検査もしくは気管支鏡検査などを行います。
胃	胃の内部を内視鏡で詳しく観察し、必要に応じて細胞を採取します。
大腸	大腸の内部を内視鏡で詳しく観察し、必要に応じて細胞を採取します。
乳	マンモグラフィ検査、超音波検査、細胞診、組織診を組み合わせて行います。
子宮頸部	コルポスコープ(腫瘍拡大鏡)下の組織診、細胞診、HPV検査などを組み合わせて行います。

*精密検査結果は、今後の検診の精度を高めるため、市町村、検診機関と共にされます。また、最初に受診した医療機関と異なる医療機関で精密検査を受けた場合は、最初に受診した医療機関にも精密検査結果が共有されます。